

令和6年度 松島こども園自己評価結果報告

こども園における自己評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

自己評価の結果を踏まえ、今後の教育・保育の質の向上にこども園運営の資質向上に努めて参ります。

A、B、C、Dの4段階評価記入（A：大変良い B：良い C：検討を要する D：改善要する）

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか	○			
	(2) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行われているか		○		
	(3) 一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解を持っているか		○		
教育保育の計画	(1) 社会状況や子どもの実態、地域性を考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか		○		
	(2) 指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか	○			
	(3) 子どもの生活が豊かになるように行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っている。		○		
子どもの発達支援	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間で共有されているか	○			
	(2) 子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるように留意しているか	○			
	(3) 子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか		○		
	(4) 子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか		○		
	(5) 子どもが遊びを通して主体的な活動を促す環境構成や援助の工夫をしているか		○		
	(6) 子ども一人一人を受容し、関わりを深め愛情や信頼関係を育む援助の工夫ができたか	○			
	(7) 健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか		○		
	(8) 子どもが自ら周囲の様々な環境と関り、発達に必要な体験を積み重ねていけるように努めているか		○		
	(9) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮されているか	○			
保護者支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場を加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか		○		
	(2) 虐待に対応できる園内体制（医療機関、児童相談所など専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○		
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園解放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか			○	

項目	内容	評価			
		A	B	C	D
教育 保育 を 支 え る 組 織 的 基 盤	(1) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか		○		
	(2) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか		○		
	(3) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか	○			
	(4) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか	○			
	(5) 個人情報適切に取り扱うとともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか		○		
	(6) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○		
	(7) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○		
	(8) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか	○			
	(9) 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○		

総合所見

【教育・保育理念】

○年度始めから法人理念や教育・保育目標は朝のミーティングや職務会で常に唱和し共通理解を図った。年に一度の法人研修を行うことで全体で教育保育理念の共有に務め、姉妹園との情報共有を深めた。利用者には、園だよりやホームページなどで明記しているが伝わりにくい点もあったので昨年から今年度にかけて学級懇談会を開いて保護者にわかりやすく伝えたりしたことが浸透への定着につながったと思う。園の情報提供の時期についてご意見もありましたので、個人情報に配慮しながら適当な時期に伝えられるようにしていく。

【教育保育計画】

○園の教育保育目標をもとに入園から小学校就学前までの発達と学びの連続性を捉え全体的な計画を作成していった。計画の段階からまた、今年度は小学校との連携も密にし、計画通りに交流することができた。また、架け橋プログラムを基に1年の担任との連携もスムーズだった。今年度は、4歳児の公開保育を行い小学校や地域の園の方にも見に来て頂いた。振り返る機会もみんなで設けることができたのことは、とてもよかった。次年度につなげていきたい。また、1年生の授業をみるのができたのは、保育教諭にとっても新鮮だった。

【子どもの発達支援】

○子どもたちが安心して過ごせる環境や保育教諭との信頼関係の構築を基盤とし、主体的に環境に関わることが生きる力の基礎を養う。「養護と教育の一体化」の意味するところを理解し、子どもたちが生活のあらゆる場面で経験を積み重ねていけるよう計画を立てた。配慮を必要とする子に対して、家庭・児童デイなどと連携を図り情報共有の場を設けることができ、連携をとりながら個別支援を進められた。

【保護者支援】

○保護者とのコミュニケーションを積極的に取り、信頼関係を築いていけるよう意識した。コドモンを取り入れて登降園の記録はスムーズになり、連絡などのやり取りは効率化された。また、保護者への個別対応もやりやすくなった。しかし、行事の日時や詳細などの周知に時期に関しては、適時に周知できていないので、今後工夫が必要とされる。感染症や全体的なお知らせに関しても、スムーズに行うことができた。アンケートの結果を踏まえると、職員間の連携が不十分であるとの意見を頂いたので、子どもに関わる事の全体理解を工夫していきたい。

【教育・保育を支える組織的基盤】

○今年度も計画通りに教育・保育活動を行うことができた。体験活動や行事を中心に実施方法を工夫することで、子ども達の経験内容も変化し達成することで自信に繋がった。子ども達の育ちを確かなものにするために園全体で活動一つひとつを検討し、実行できるようにしていった。実行したあとは、振り返りの機会を設けることで、職員同士の活動理解を深めることができた。また、今年度は新人職員も増えたことで法人内で新人職員研修を行った。法人理念や教育保育目標への理解を深めるとともに、保育教諭としてのあり方を考える内容で進めていった。次年度も振り返りを中心に、園内研修を充実させていきたい。